

# 今、自治体病院の健全な経営が求められている。

市町村などの自治体の財政破たんを防ぐために、一昨年、地方財政健全化法が成立しました。この法律では、自治体財政の健全性を一般会計だけではなく、病院事業などの公営企業会計を含めて総合的に判断されるようになりまし。自治体運営を健全に進めるうえでも、病院の健全な経営が強く求められています（参考・広報ちとせ平成20年11月号「今月の焦点」）。

国は、こうした背景から、自治体病院の抜本的な経営改革を

【図1】ガイドラインが示す自治体病院改革の視点

- ① 経営の効率化  
数値目標を設定し、目標の達成に向けて経営の効率化を進める。
- ② 再編・ネットワーク化  
地域の自治体病院を中核的医療を担う基幹病院と日常的な医療を行う病院・診療所へと再編成し、連携体制をつくる。
- ③ 経営形態の見直し  
現在の経営形態を変更し、自律的・弾力的な病院経営を目指す。

を進めるための指針「公立病院改革ガイドライン」を示しました。そして、自治体に対して改革プランをつくり、改革に取り組む

## 地域と密着した医療を進める市民病院。

### ■ 地元を利用する市民

市民の皆さんが市内の医療機関を利用する割合は、入院が70%、外来が84%となっています。また、市外では、札幌の医療機関を利用する割合が入院、外来ともにもっとも高く、それぞれ15%、7%となっています。

市民の皆さんは、札幌市などの医療機関に一部依存しながらも、地元の医療機関で診療を完結する傾向があります。

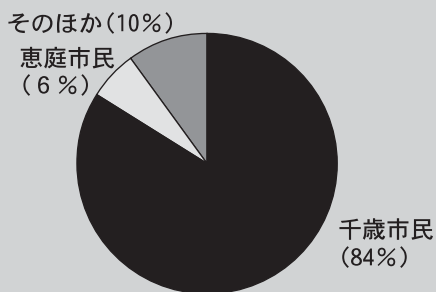
### ■ 市民病院は市民の病院

市民病院の地域別患者構成では、市内から受診する患者の割

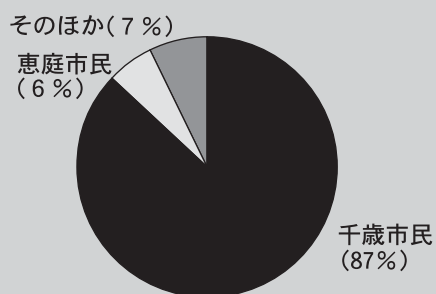
ことを求めています（図1）。  
改革プランでは、地域に必要な医療の提供体制を確保するため、自治体病院が期待されている役割と一般会計の経費負担の考え方を明確にし、①経営の効率化②再編・ネットワーク化③経営形態の見直しの3つの視点に立つた一体的な改革を進めます。

【図2】市民病院利用者の住所別割合

●入院 …………… 平成19年度 59,548人



●外来 …………… 平成19年度 172,446人



合が入院・外来ともに80%を超えています。また、おとなりの恵庭から受診する患者も合わせると、入院で90%、外来で93%と

なります（図2）。  
市民病院は、千歳・恵庭両市民に多く利用される地域に密着した病院といえます。  
市民病院はこうした状況から、患者の診察を受ける区域を千歳・恵庭圏と設定し、市民病院改革プランをつくりました。

